18年生産量

野菜減少も缶詰0.3％増

レトルト食品は過去最高

日本缶詰びん詰レトルト食品協会は2018年の国内生産量を発表した。缶詰（飲料をのぞく丸缶）で合計21万5195㌧となり、前年に比べて0・3％増加した。このうち水産は10万4410㌧で前年比5・9％増。健康効果で注目されたサバ（26・6％増）、イワシ（52・3％増）などがけん引した。一方野菜は3万4983㌧、果実2万8773㌧で、それぞれ8・8％、2・5％減少した。

野菜・果物の品目別に見ると、野菜で最も生産量の多いスイートコーン（1万2488㌧）が前年比11・2％減少。一方、タケノコ（821㌧）は2％増加した。果物では最も生産量の多いミカン（8421㌧）が7・8％減。モモ（3194㌧）は8・6％減、パイン（639㌧）で13・2％減少したものの、リンゴ（1145㌧）は7・4％増加した。

一方、びん詰の生産量は5万0378㌧で、前年比18・6％減。レトルト食品は37万9521㌧で1・3％増となり過去最高を更新した。このうち最も生産量の多いカレー（16万1711㌧）が3・5％増加。このほか食肉野菜混合煮（1万8605㌧、18・3％増）、マーボ豆腐の素（8683㌧、11・2％増）、料理用調味ソース（4万4275㌧、1・7％増）などで増加した。